

### αCD、腸管バリア機能向上が示唆

シクロケムは5月26日、水溶性食物繊維のαシクロデキストリン(αCD)に、腸管バリア機能を向上させる可能性があることを動物試験で確認したと発表した。

試験では腸管上皮粘膜炎の主要成分とされ、腸管バリア機能を担うとされるムチン量を調べた。3群に分けたラットに、αCD、無繊維食、ラクトスクロースをそれぞれ8週間摂取させた結果、αCD摂取群の盲腸内容物中のムチン量は約2・3<sup>ミリダ</sup>だったのに対し、無繊維食群は約0・5<sup>ミリダ</sup>、ラクトスクロース摂取群は約0・7<sup>ミリダ</sup>で、無繊維食群との比較ではムチン量が4倍多く、有意差もあったという。